環境ガイド

名城大学附属高等学校は

「環境」に配慮した学校運営にチャレンジしています

名城大学及び名城大学附属高等学校は、地域のみならず我が国における教育研究のリーダーとして「環境の21世紀」にふさわしい環境を創造するために、持続的に発展可能な循環型社会の構築に貢献し、教育研究をはじめとする全ての活動において、「環境」に配慮したキャンパス運営にチャレンジしています。

C O N T E N T S

- 名城大学の環境マネジメントシステム
  - 1-環境方針 ―― 1
  - 2-本校の取り組み目標 ―― 2
- 廃棄物について
  - 1-分別 ―― 3
  - 2-廃棄物の処理 ―― 4
  - 3-産業廃棄物 ―― 4
- 紙類のリサイクル ―― 5
- 省エネ
  - 1-電気 ―― 5
  - 2-エアコン ―― 5
- 節水 ―― 6
- 環境対策 ―― 6
- 各教科実習・実験の環境配慮事項
  - 1-理科教科実験 ―― 7
  - 2-家庭科実習 ―― 8
  - 3-パソコン実習 ―― 8
  - 4-総合学科・実習・実験 ―― 9

名城大学の環境マネジメントシステム

1 環境方針

名城大学環境方針

環境理念

名城大学及び名城大学附属高等学校は、情報化、高度化、国際化する社会の要請と、「環境の21世紀」に応えられる教育研究を推進し、持続的に発展可能な循環型社会の形成に寄与する人材の育成に努めます。

環境方針

① 地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動を充実し、環境を視野に入れた人材を育成します。
② 環境に係る公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
③ 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理に努め、環境負荷の低減に取り組みます。
④ 教育研究をはじめ、総ての活動において、環境関連法規制、協定等を順守し、汚染の予防に努めます。
⑤ 内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
⑥ 環境方針を達成するため、環境目的、目標を設定し、定期的に見直します。
⑦ 環境方針は、インターネットホームページで公開します。

平成 23 年 4 月 1 日
名城大学学長　中根　敏晴

2 本校の取り組み目標

各教室や実習室における環境に影響を与える著しい側面や、環境方針の取り組み方法を具体化し、本校の取り組み目標としたものが次の事項です。

●環境に係る教育活動の推進
- 1 実習・実験授業での環境保全指導の徹底
- 2 文化祭での廃棄物処理等の指導・助言
- 3 教育課程変更に係る環境教育の検討
- 4 生徒による環境行事への支援

●省資源の推進
- 1 コピー用紙の購入量削減
- 2 水使用量の削減

●省エネルギーの推進
- 1 電気使用量の削減
- 2 冷暖房燃料の使用量削減

●一般廃棄物の適正管理と減量（排出量の削減）

●産業廃棄物の適正管理と減量

この中で、生徒皆さんに実際に実施していただくことは、電気等の省エネ、紙等の省資源への取り組み、廃棄物の分別・減量等です。具体的には次頁以降の廃棄物、紙、省エネ、節水等の該当するページを参照してください。

エコ活動を実践しよう

～地球環境に優しく～

名城大学の環境マネジメントシステムの対象範囲は、天白、八事、可児、鷹来、中村（附属高等学校）の各キャンパスに日進グランドを加えた全キャンパスになります。

取り組む対象者は構成員の教員・事務職員ですが、本学の環境方針を具体的に実行する上において、準構成員である生徒の皆さんの協力なくしては目標を達成することはできません。是非生徒の皆さんの率先した協力を求めます。

廃棄物について

1 分別

廃棄物は安易に焼却すればダイオキシンの発生、埋めれば土壌汚染、処理場の限界等、増え続ける廃棄物を減量しない限り、環境保全は維持できません。

本校では、名古屋市の基準に準じて分別しています。

- ●全ての教室、実習室、会議室等に可燃物、缶、ペットボトルの3分別ボックスを設置しています。
- ●屋外は南校庭についてのみ2分別ボックスのアミカゴを4箇所に設置しています。
- ●梱包用の発泡スチロールは、担当教員の指示にしたがって処理してください。リサイクルします。

可燃ごみ	生ゴミ（コンビニ等の袋に入れ、口を閉じて出してください）、木屑、ティッシュ、紙製のトレイ、紙製粘着テープ、写真、感熱紙、粘着シール、ビニール類、ゴム製品、カップ麺容器、プラスチック製容器、トレイ、ストロー、インスタント食品の容器、キャンディ・菓子類の包装袋
缶	飲料用の空き缶
ペットボトル	空ペットボトル、キャップ

教室内の分別ボックス

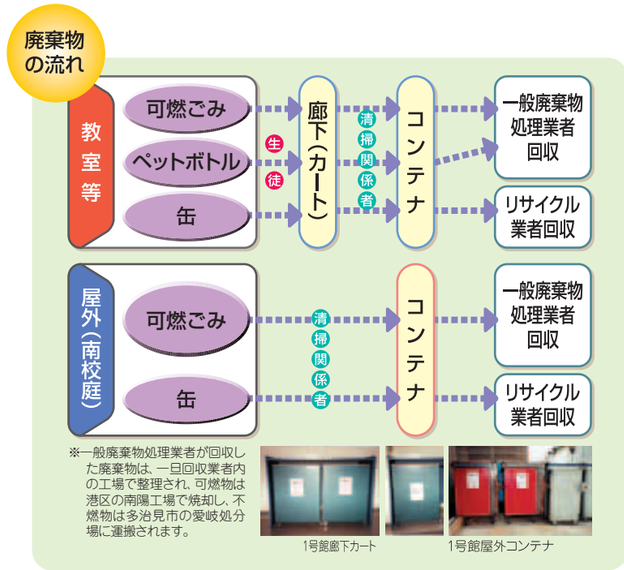
皆さんの実施事項

- ●廃棄物は必ず指定されたボックスに分別して入れよう！
- ●生ゴミやプラスチック容器を一緒にしたまま廃棄しない（必ず分別）
- ●ビン類は持ち帰ろう！
- ●廃棄物減量のためにも持ち込みゴミは持ち帰ろう！
- ●購買での購入は、可能な限りポリ袋は断わろう！

2 廃棄物の処理

私たちが出した廃棄物がどのようなルートで処理されているのか。また、教室から出された廃棄物が、廊下のカートを経由し、その後どこに運ばれるのかほとんど知ることがありません。こうした流れを理解することが、環境意識を高める第一歩です。

●教室から出た廃棄物をカートに入れるのは各クラスの当番もしくは美化委員に限定されます。



皆さんの実施事項

●廊下のカートに、直接ゴミを入れない（カートへの直接投棄を禁じます）
●屋外で発生したゴミは、アミカゴのみに入れよう!
●コンテナへ直接投棄をしない!

3 産業廃棄物

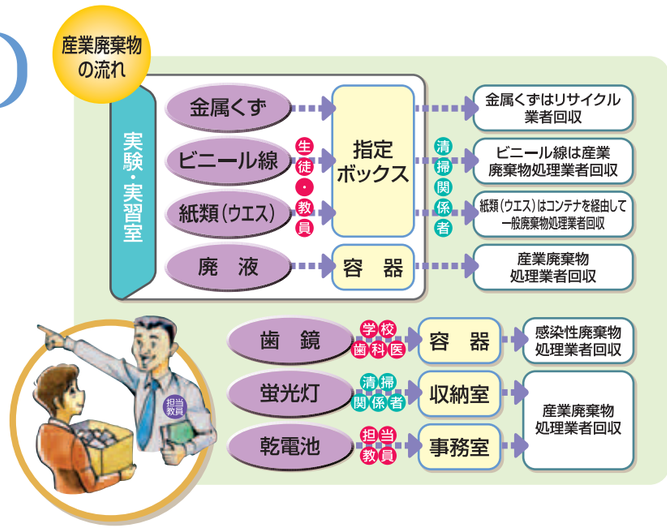
廃棄物には、皆さんが日常出す弁当用のパンの袋や缶等の一般廃棄物と実習・実験を実施していく上で排出される実験廃液、金属くず、プラスチックくず等の産業廃棄物があります。

産業廃棄物については、これまでに紹介した①の「分別」、②の「廃棄物の処理」のように処理することはできません。自治体から特別に許可された業者のみが回収します。これは、発生した廃棄物の量や性質から、環境汚染の原因になると法律や政令で定められているからです。

●家庭科実習の生ゴミは一般廃棄物処理になります。

皆さんの実施事項

●産業廃棄物の処理については、担当教員の指示に従う

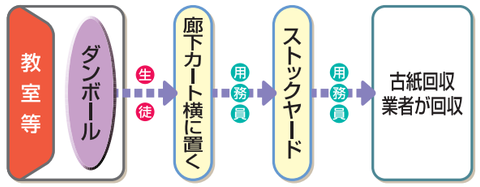


紙類のリサイクル

かつて紙は文化のバロメータとも言われ、紙を消費しながら日本は高度な経済成長を遂げてきました。

しかし、一方で紙の原料となる森林は減少しました。現在は海外で植林されたユーカリ等がパルプ、チップになって、日本に輸入され、コピー用紙等に利用されていますが、約70kg の古紙をリサイクルすると太さ14cm、高さ8mの立ち木2分の1を切らずにすみます。紙をリサイクルすることは、貴重な自然を守ることになるのです。

●各教室等に設置されたダンボールの中に紙類は入れてください。
●満杯になったダンボールは、各クラスで任命された当番が廊下のカート横に置く。



リサイクル可能な紙

新聞、雑誌、コピー用紙、授業中に配布されたプリント、チラシ、パンフレット、ノート、ポスター　他

リサイクル不可能な紙

写真、感熱紙、感光紙、油紙、紙コップ、トレーシングペーパー、プラスチック製のファイル、使用済みのティッシュ、カーボン紙、クリップ、ビニールひも、ビニール・セロハン系の袋、ビニールコーティングされた紙・台紙・包装紙、濡れた紙　他

皆さんの実施事項

●リサイクル可能な紙は指定のダンボールの中に入れ可燃物の中に入れない
●リサイクル不可能な紙をダンボールの中に入れない
●持ち込んだ雑誌等は持ち帰ろう！

省エネ

1 電気

電気をつくる際に、使用する化石燃料等によって発生する二酸化炭素（CO_2）の増加は地球温暖化を促進させます。温暖化に伴う弊害は私たちの生活にはかりしれない負の影響を及ぼします。こうした状況を防ぐためにも、省エネ、省資源に皆でとりくむことが大切です。

皆さんの実施事項

●教室、実習室、部室、トイレ（1 号館除く）等の部屋を最後に退室する場合（鍵当番などの電源をオフにする担当者等がいる場合は除く）は、蛍光灯のスイッチをオフにしよう！
●パソコン等の機器も使用後は電源を落としましょう！

2 エアコン

エアコンの燃料は、ガス（1 号館）、重油（2-4 号館）を使用しています。ともにばいじんや窒素酸化物（NOX）を発生させますが、重油は硫黄酸化物（SOX）も排出しており、大気汚染の原因を作り出しています。

限られたエネルギーを有効的に利用することが必要となります。

皆さんの実施事項

●暖房、冷房時には教室等の扉・窓を必ず閉めよう！
●1 号館以外の建物で、暖房、冷房時に教室等を最後に退室する時は、エアコンスイッチをオフにしよう！

節　水

非常に貴重な資源である水。地球に存在する水のほとんどは海水で、人間が利用可能な淡水は 2.5% に過ぎません。このため世界で多くの人々が安全な水を確保できない状況にあります。

日本国内においても、この貴重な水資源に汚染や汚濁が進み、生態系に影響を与えている地域もあります。私たちは水の恩恵を得ることができている現状を充分に感じながら、大切に使用することが求められます。

節水用シール

皆さんの実施事項

●手を洗ったり、実習等で水を利用するときは、流しっ放しにしないように注意しよう！

環境対策

学校を運営していく中で、周辺地域との関りは重要課題です。道路へのゴミのポイ捨て、実習や部活団体等で発生する騒音等、いずれも地域の方々にとっては生活環境を阻害する一要因になります。私たちは、何も知らないまま学校生活を過ごしていますが、学校における日常の行為や行事が、地域の住民の方々にとっては大きな迷惑にもなるのです。校内放送や非難時のサイレン、文化祭もそうです。自らのことのみを考えるのではなく、住民の立場に立って今実施しようとしていることを考えることも必要です。

本校では地域との関係を重視し、校外周辺地域の環境美化を目的に、定期的な清掃活動を実施しています。

校外清掃の光景

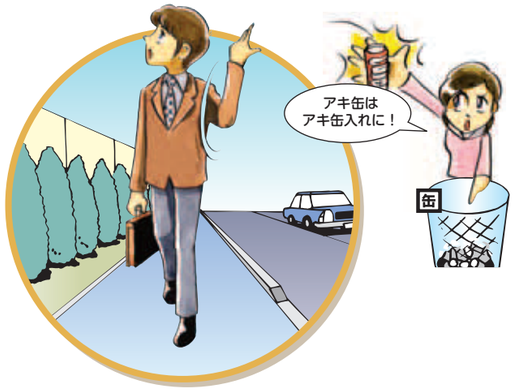
校外清掃

本校周辺（通学路は特に重要地域）を8地域に分け、クラス単位で輪番制で担当し、1ヵ月に1回清掃を実施しています。また、バレー部等の部活団体も独自に清掃を実施しています。回収したゴミは分別し、缶等の資源物はリサイクルしています。

文化祭で牛乳パックによる環境教育を開催

2002年度の文化祭では、回収した14001個の牛乳パックを展示し、牛乳パックのリサイクル経路、トイレットペーパーとの関係等を記したレポート展示、生徒諸君による牛乳パックに係る様々な提案発表、紙梳き体験、牛乳パックの回収ボックスの設置等、牛乳パックを通した環境教育のイベントを開催しました。これをきっかけに現在ではクラスごとにパックを回収しています。

回収された牛乳パック



皆さんの実施事項

●ゴミのポイ捨ては絶対にやめよう！
●騒音を伴う場合は、周囲にも気配りを

各教科実習・実験の環境配慮事項

1 理科教科実験

実験をするときには怪我や事故が起こらないように注意する必要があります。

なぜならば、実験室にある化学物質の多くは、火災、中毒のおそれのある危険な物質や有毒な物質であるため、使用や破棄には十分な注意が必要だからです。

また、器具や装置の扱いにも注意が必要であり、破損した場合には、適切な処置をしなければなりません。

さらに、実験を行うにあたって環境への配慮を忘れてはなりません。したがって、薬品の取扱及び廃棄物の処理についての対応を以下に記しますので、よく読んで行動してください。

薬品の使用上の注意

実験で使うほとんどすべての物質は有毒物と考えてよい。したがって、実験後には手洗い・うがいを励行する。毒物とは、生体に接触し、体内に摂取された場合、生命の危険を招くおそれがある物質を指す。

1 使用前に、その物質の危険性や有毒性について確認する。
※詳細については、各実験毎に実験マニュアルを用意するので参照すること。

酸・アルカリ	重金属	有機溶媒
失明のおそれがあるので目に入らないように注意し、手や皮膚についた場合には、すぐに水で洗い流す	粘膜・口・皮膚等から吸収されるので、手や皮膚についた場合は、すぐに水で洗い流す	アルコール・エーテル・ベンゼン等は引火の恐れがあるので、バーナーを使う際には注意する。また、粘膜・口・皮膚等から吸収されるので、手や皮膚についた場合は、すぐに水で洗い流す

2 使用中に気分が悪くなったり、痛みを感じた場合には速やかに先生に報告し、指示を受ける。

3 もし、事故が起こったときは速やかに先生に報告し、指示を受ける。

4 使用済の物質は、環境汚染をおこさないように適正に処理する。
※詳細は以下の廃棄物の処理にしたがう。

廃棄物の処理

1 破損した器具は、所定の容器（ガラス器具用ごみ箱）に保管する。

2 使用済の薬品は、次の4つの廃棄容器に分別して保管する。重金属を含む溶液・酸の溶液・塩基の溶液・有機溶媒
※最終的な廃棄は、教員が適切な後処理を施した後、廃棄専門の契約業者が引きとる

3 上記以外の廃棄物は、学校指定の可燃ごみ・缶に分別して、所定の専用容器に

2 家庭科実習

調理室

調　理　時

●分量や目的にあわせた器具を使用するよう心がける。分量に対して必要以上の大きさの鍋を使用すると、水を無駄に使うだけでなく、加熱時間も増えるためガスなどのエネルギーも余分に使うことになるので気をつける。また、鍋の底に水滴がついていると十分な加熱がされるまでに余分な時間がかかるのできちんと拭き取ってから使用する。
●食材は出来る限り廃棄の出ないように切ることを心がける。
●中華なべや分配皿等に油が残っている時は油を捨てるための透明な袋の中に入れ、後でまとめて可燃ごみに捨てる。排水を汚さないためにもそのまま排水口に流すことのないようにする。

後片付け時

●使用する洗剤は、環境に配慮して薄めて使用するが、薄めてあるからといって汚れの落ち方にはほとんど変わりはないので、必要以上に使わないように心がける。
●洗い物をする際、水は流しっぱなしにしない。また、水の勢いを強くしても無駄な水を使用するだけで汚れの落ち方には変わりはないので必要以上に蛇口をひねらないようにする。
●コンロの元栓を締めたかどうかを確認する。元栓があいているとガスが漏れる等して事故にもつながるので十分気をつける。
●最後に部屋を出る生徒は換気扇と電気、エアコンを忘れずに消す。

被服室

作　業　時

●ミシンやアイロン等の電化製品は安全に取り扱い、使用時以外はこまめにコンセントを抜くようにする。
●道具は他のクラスの生徒も使用するので丁寧に扱い、糸等も無駄に使わないように、必要分を考えて使用する。

後片付け時

●道具がきちんと使用前の数だけ揃っているかを確認する。特に針等は失くすと危険なので細心の注意を払って取り扱う。
●最後に部屋を出る生徒は電気とエアコンを忘れずに消す。

3 パソコン実習

●サーバーのモニターは電源が OFFにしてあり、必要な時のみ ONにする。また、プリンターの電源も OFFにしてあり、必要な時のみ ONにする。
●パソコンの電源は、担当教員の指示があるまでONにせず、無駄な電力を使用しない。
●プリンターを使用し出力する場合は、用紙は裏面を再利用する。
●空調は、夏25～27℃、冬20～22℃に設定することを心掛ける。
●4号館4Fパソコンについてのみ、元電源(ブレーカー)をOFFにしているため、待機電力を使用しない。
●プリンターのトナーは業者に回収をお願いし、リサイクルしたものを利用する。

4 総合学科・実習・実験

安全確認と環境問題（節電・節水・ごみの分別等）に配慮しながら手際よく実験を行いましょう。担当教員は生徒に下記事項の確認を毎回行い、常に気を配ってください。

実習・実験名等	共通事項	各実習・実験固有事項
数理実習	●実験室への入退室等に電灯・エアコンのスイッチ操作をした場合は、必ずその操作時刻と操作をした人の氏名を備え付けの記録簿に記入する。（記録簿は毎月集計して所定の部署へ提出） ●排出された可燃ごみ、資源ごみ（紙、鉄、銅線）、不燃ごみ、エッチング廃液、使用済電池、廃OA機器、廃計測機器類はそれぞれ専門の処理業者に回収委託する。	●身の安全・測定機器類保護・節電のためにも指示された時以外は電源スイッチなどを操作しない。また、実験は手際よく行い、測定が終了したら素早く電源を切る。 ●データ整理・グラフ作成・考察等手際よく処理し、周辺の清掃をして終了するが、排出したごみ類は種類により指示された容器に区別して入れる。 ●紙くずは再利用できるものは紙資源用容器（雑誌類入れ）に、再利用できないものは可燃ごみ用容器に区別する。 ●半田くず・電線くずなどは銅類用容器へ、鉄類は鉄類用容器に、電線被覆のビニール（中に電線が無いもの）、プラスチック・プリント基板、発泡スチロール、ポリプロピレンは不燃物用容器、使用済電池は電気情報管理室に備えてある使用済電池専用容器にそれぞれ区別して入れる。 ●プリント基板作成時はエッチング後、液をティッシュペーパー等で良く拭き取った後、バケツに水を入れ水洗いする等節水に心掛ける。エッチング槽の後かたづけも極力節水に注意する。排出したごみは分別に気をつける。
パソコン室 （CAD室 基礎実習 電気実習）		●教師指示用テレビモニター・プリンターは電源が切れており、必要時のみスイッチを入れ、切り忘れに注意する。 ●生徒用パソコンの電源は担当教員の指示があるまで入れないこと。スイッチを入れた後は、切り忘れに注意する。 ●プリンター使用時は用紙の節約に気をつけ、出来るだけ両面印刷を心掛ける。 ●プリンターの使用済みトナーは新規購入の際、販売業者に引き取り願う。